

ふりがな 氏 名	むらた あゆみ 村田 あゆみ	職 名	准教授
取 得 学 位	修士(言語文化)	学会での受賞歴	
主な担当科目	保育内容演習(言葉)、保育の表現技術(言語表現)、保育実習指導、幼児の言葉(指導法)ほか		
所 属 学 会	日本児童文学学会(中部支部運営委員 H25/4～)、日本昔話学会、説話伝承学会、日本保育学会、絵本学会、日本保育者養成教育学会		

◆ 教育業績

事 項	実 施 年月(日)	概 要
小学校体験学習事前指導	平成 24 年 4 月～現在継続中	児童教育学専攻 1 年生の越原研修時における現地小学校の体験学習の際の「絵本読み語り」体験の事前指導を行った。絵本についての知識と読み方の実践演習を実施した。絵本の選書についての基本を学ぶことにより、現地での学習効果をより高めることができた。平成 24 年より継続。
保育の表現技術「言語表現」、幼児の言葉(指導法)の授業における活動①	平成 24 年 4 月～現在継続中	幼児保育学専攻 1 年生「保育の表現技術 I (言語表現)」の授業において、授業者が制作した基本絵本リストより 40 冊分の絵本記録カードを作成させた。書誌事項の他内容分類、梗概、所感等の項目を設け、絵本についての情報を様々な角度から取り込むことで自らの絵本観を育て、同時に今後の保育現場で生かせる基礎資料となることを目的とした。絵本を深く読むことにより、絵本のもつテーマ性や働きを理解することができた。
保育の表現技術「言語表現」の授業における活動②	平成 24 年 6 月～現在継続中	上記授業の後半において「絵本シアター」の企画をグループ演習として展開した。絵本をもとにしてペープサートや劇、遊びなどの児童文化財として制作し発表した。絵本の世界を五感をつかって楽しむことを学生自らが体験しつつ、子どもたちと共感できる学びとなった。
保育内容演習「言葉」の授業における活動～冊子「実習で見つけた小さなことばたち」の作成	平成 25 年 10 月～現在継続中	授業に先立ち、保育実習 I (平成 26 年度より教育実習)の際に子どもの言葉を記録しておくよう指示、授業内でエピソード記録としてまとめた上でグループディスカッションを行った。さらに園便りを意識した文体に書き直し、グループ毎の冊子を作成した。何気ない子どもの言葉に耳を傾ける保育者の姿勢、言葉の背景にある理論、読んでもらうことを意識した文章の書き方等総合的な学びとなった。
教員免許状更新講習 選択領域「人間・自然・文化から子どもの教育をかんがえる」「表現芸術」領域(絵本)	平成 27 年 8 月、28 年 8 月、29 年 8 月	「絵本について考える～理論と実践」児童文化財としての絵本の理論と実践
「あいちワークショップギャザリング」へのゼミ活動としての参加 “絵本の森へようこそ！森の絵本を楽しもう”の	平成 27 年 8 月 22 日	椋山女学園大学にて開催されたワークショップ「こどもとアートとモノづくり」に、絵本研究ゼミナールと美術表現ゼミ

事 項	実 施 年月(日)	概 要
<p>企画と運営</p> <p>瑞穂児童館共催講座「開かれた地域貢献事業」におけるゼミ活動としての参加</p> <p>「あいちワークショップギャザリング 2016」へのゼミ活動としての参加 “親子で一緒に☆絵本の世界を工作しよう”の企画と運営</p> <p>瑞穂児童館共催事業「開かれた地域貢献事業」におけるゼミ活動としての参加</p> <p>児童館子育て支援活動「おねえさんとあそぼう」の企画運営</p> <p>「あいちワークショップギャザリング 2017」へのゼミ活動としての参加“モクレンおじさんのともだちをつくろう”企画と運営の指導</p> <p>瑞穂児童館共催事業「開かれた地域貢献事業」におけるゼミ活動としての参加</p>	<p>平成 27 年 12 月 20 日</p> <p>平成 28 年 8 月 27 日</p> <p>平成 28 年 12 月 4 日</p> <p>平成 29 年 3 月 2 日</p> <p>平成 29 年 8 月 19 日</p> <p>平成 29 年 9 月 10 日</p>	<p>ナールの協働活動の一環としてブースを出展した。会場に特大パネルで森を作り、絵本に出てくる小道具を用意して、絵本の世界に入り込める仕掛けづくりをくふうし、来場者自身が絵本の主人公となれるような工夫をした。教員がワークショップの主旨とアイデアを伝え、学生がそれらを具体化することを通して、企画運営の在り方を学ぶことができた。</p> <p>瑞穂児童館にて「絵本の中の手しごとを体験しよう！『ペレのあたらしいふく』と藍染め体験」を絵本研究ゼミナール、美術表現ゼミナールとの共同で企画運営した。絵本研究ゼミナールでは、絵本をパネルシアターにして公演、絵本の中の糸紡ぎを実演するなど、工夫を凝らした表現活動を学生主体で実施した。</p> <p>椋山女学園大学にて開催されたワークショップ「こどもとアートとモノづくり」に、絵本研究ゼミナールと美術表現ゼミナールの協働活動の一環としてブースを出展した。絵本に出てくるビスケットをイメージしたお菓子作りを軽量粘土を使用して実施した。ゼミ学生は安全に配慮しつつ、100 名を超す来場者の一人一人に丁寧に関わる体験とワークショップの企画運営を学ぶことができた。</p> <p>瑞穂児童館にて「だるまちゃんと あそぼう つくろう おどりましよう！」を絵本研究ゼミナール、美術表現ゼミナールの合同企画として企画運営した。だるまのお面づくりなど学生自身が企画を考え準備、当日の運営を行った。</p> <p>愛西市勝幡児童館より絵本研究ゼミナール、保育相談ゼミナールに絵本を通じた活動依頼を受け、ゼミ生が主体となって企画運営を行った。対象は 1, 2 歳児の親子 20 組ほどで 1 時間のプログラム構成を行った。ふれあい遊びや絵本シアターを実施した。</p> <p>椋山女学園大学にて開催されたワークショップ「こどもとアートとモノづくり」に、絵本研究ゼミナールのゼミ学生の卒業研究の取り組みとして出展し、指導を行った。絵本の読み語りを行った後、絵本の中の登場人物の友達を様々な素材で制作する活動である。</p> <p>総研と瑞穂児童館共催事業の一環として絵本研究ゼミナールのゼミ学生による卒業研究の取り組み「モクレンおじさんのともだちをつくろう」を実施、指導した。上記のワークショップと同内容であるが、来場者の人数や年齢、参加方法等異なる環境での運営となり、柔軟に対応する保育力を高める学びともなった。</p>

事 項	実 施 年月(日)	概 要
児童館子育て支援活動「おねえさんとあそぼう」の企画運営	平成 30 年 3 月 1 日	愛西市勝幡児童館より未就園児対象の子育て支援事業への絵本を通じた活動依頼を受け、絵本研究ゼミナールとして、学生主体の企画運営を行った。ふれあい遊びや絵本を読んだ後、カラービニールで私のワンピース作りを親子で行った。乳児の発達段階の学びのよい機会となった。
「あいちワークショップギャザリング 2018」へのゼミ活動としての参加“はじめてのおつかいにでかけよう”企画と運営の指導	平成 30 年 8 月	相山女学園大学にて開催されたワークショップ「こどもとアートとモノづくり」に、絵本研究ゼミナール 4 年生の活動の一環としてブースを出展した。絵本の世界と子どもの実体験をむすぶ活動を通して、子どもの感性や心の発達を学ぶことができた。
「まなびの文化祭 2018」へのゼミ活動としての参加“はじめてのおつかいにでかけよう”企画と運営の指導	平成 30 年 9 月 29 日	上記と同内容の活動を絵本研究ゼミナール 3 年生が行った。3 年生の主体的なゼミ活動として大きな意味があった。
瑞穂児童館共催事業「開かれた地域貢献事業」におけるゼミ活動としての参加	平成 31 年 2 月 9 日	総研と瑞穂児童館共催事業の一環としてワークショップ「みんなで笑顔になっちゃおう！ お絵かきトースト作り」において絵本研究ゼミナールの学生の指導を行った。本ワークショップは本学総合科学研究所助成金による共同研究「平成 30 年度プロジェクト研究」の一環によるものである。
「保育内容の理解と方法(言語表現)」の授業における活動①	平成 31 年 4 月～	幼児保育学専攻 1 年生「保育内容の理解と方法(言語表現)」の授業において、授業者が制作した基本絵本リストより 40 冊分の絵本記録カードを作成させた。書誌事項の他内容分類、梗概、所感等の項目を設け、絵本についての情報を様々な角度から取り込むことで自らの絵本観を育て、同時に今後の保育現場で生かせる基礎資料となることを目的とした。絵本を深く読むことにより、絵本のもつテーマ性や働きを理解することができた。
「幼児と言葉」の授業における活動	平成 31 年 4 月～	児童教育学専攻 1 年生「幼児と言葉」の授業において、授業者が制作した基本絵本リストより 40 冊分の絵本記録カードを作成させた。書誌事項の他内容分類、梗概、所感等の項目を設け、絵本についての情報を様々な角度から取り込むことで自らの絵本観を育て、同時に今後の保育現場で生かせる基礎資料となることを目的とした。絵本を深く読むことにより、絵本のもつテーマ性や働きを理解することができた。
「保育内容の理解と方法(言語表現)」の授業における活動②	平成 31 年 4 月～	幼児保育学専攻 1 年生及び児童教育学専攻幼児教育コース 2 年生「保育内容の理解と方法(言語表現)」の後半において「絵本シアター」の企画をグループ演習として展開した。絵本をもとにしてペープサートや劇、遊びなどの児童文化財として制作し発表した。絵本の世界を五感をつかって楽しむことを学生自らが体験しつつ、子どもたちと共感できる学びとなった。

事 項	実 施 年月(日)	概 要
「あいちワークショップギャザリング 2019」へのゼミ活動としての参加“海の世界をのぞいてみよう” 企画と運営の指導	令和元年 8月	椋山女学園大学にて開催されたワークショップ「こどもとアートとモノづくり」に、絵本研究ゼミナール4年生の活動の一環としてブースを出展した。絵本の世界と子どもの実体験をむすぶ活動を通して、子どもの感性や心の発達を学ぶことができた。また3年生も4年生の指導下参加し、共に学ぶ場となった。
「まなびの文化祭 2018」へのゼミ活動としての参加“はじめてのおつかいにでかけよう” 企画と運営の指導	令和元年 10月 5日	上記と同内容の活動を児童教育学科教育特色化事業としての活動に出展した。

◆ 研究業績

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
著 書	『教員免許状更新講習の理解を深めるための教育・保育の論点ガイド』	共	平成 28年 8月	三恵社	第3章 領域及び保育内容の指導法 第4節 領域「言葉」と絵本—絵本の中のことばを考える— 全72頁中、pp.54～56 執筆 著者:村田あゆみほか24名
	『教職・保育職シリーズ1 小学校教諭・幼稚園教諭・保育士をめざす人へ』	共	平成 28年 12月	三恵社	第5部 保育内容の指導法 第3章保育内容「言葉」—文字の読み書きと絵本— 全261頁中、pp.191～196 執筆 著者:村田あゆみほか31名
	『教員免許状更新講習の理解を深めるための教育・保育の論点ガイド No.2』	共	平成 29年 7月	三恵社	第3章 領域及び保育内容の指導法 第1節 保育内容「言葉」における児童文化財の活用—絵本の理論と実践— 全164頁中、pp.148-153 執筆 著者:村田あゆみほか27名
	『教職・保育職シリーズ4 教育・保育の学びプラス・ワン』	共	平成 29年 12月	三恵社	第8章 保育内容(言葉)で学ぶ児童文化財—幼児と伝承文学— 全160頁中、pp.126-131 執筆 著者:村田あゆみほか26名
	『新時代の保育双書 保育内容ことば』第3版	共	平成 30年 3月	みらい	編著:赤羽有里子・鈴木穂波 著者:村田あゆみほか15名
	『教員免許更新講習の理解を深めるための教育・保育の論点ガイド No.3』	共	平成 30年 7月	三恵社	第3章領域及び保育内容の指導法 第3節保育者を目指す学生の絵本シアターの企画と実践

区分	著書・論文・発表テーマ・作品・演目などの名称	単・共	発行・発表年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏会の名称(会場名)	備考
					—領域「言葉」についての学び— 全202頁中、pp.176-185 執筆 著者:村田あゆみほか23名
論文	保育内容(言葉)における「子どものことば」—事例の分析と考察—	単	平成29年2月	名古屋女子大学文学部 児童教育学科編 / 教育・保育モノグラフ No.1	pp.176～181
	日本における昔話絵本「三びきのこぶた」の起点と変遷(第1報)—描かれた「三びきのこぶた」—	単	平成29年3月	名古屋女子大学 紀要第63号 人文・社会編	pp.405～418
	近代日本における「三匹の子豚」の受容—子ども対象の読み物としての視点から—	単	平成29年3月	日本昔話学会 / 昔話—研究と資料—45号	pp.95-106 (査読付論文)
	保育内容(言葉)における授業実践—実習時の経験の授業への活用の試み—	単	平成30年3月	名古屋女子大学 紀要第64号 人文・社会編	pp.237-249
	乳幼児の「ことばに対する感覚」と発達—0～2歳までの記録を通して—	単	平成30年3月	名古屋女子大学文学部 児童教育学科 / 教育・保育モノグラフ no.2	pp.210-219
	加古里子論—『だるまちゃんどてんぐちゃん』を中心に—	単	平成30年12月	児童教育論集 第2号	pp.157-166
	戦後名古屋におけるキリスト教保育の特色～1950年代の保育日誌の検討～	共	平成31年1月	聖公会保育 第24号	pp.58-78 片山伸子、山本聡子、 <u>村田あゆみ</u>
保育現場で児童文化財は活用されているのか—幼稚園における言語活動に関する—考察—	単	令和元年12月	児童教育論集 第3号	pp.76-85	
学会発表	保育者養成校における絵本を題材とした造形ワークショップの実践研究(1)～表現系ゼミ合同による3つの実践	共	平成27年9月	全国保育士養成協議会 第54回研究大会	堀祥子・ <u>村田あゆみ</u> 研究発表論文集 p.138
	保育者養成校における絵本を題材とした造形ワークショップの実践研究(2)～言語及び造形表現領域か	共	平成27年9月	全国保育士養成協議会 第54回研究大会	<u>村田あゆみ</u> 、堀祥子 研究発表論文集 p.139

区分	著書・論文・発表テーマ・作品・演目などの名称	単・共	発行・発表年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏会の名称(会場名)	備考
	らの考察～				
	昭和 30～40 年代の幼児の生活と家庭環境について(ポスター発表)	単	平成 28 年 5 月	日本保育学会第 69 回大会	発表要旨集 p.906
	日本における昔話絵本「三びきのこぶた」の始まりと変遷(口頭発表)	単	平成 28 年 5 月	第 19 回絵本学会大会	発表要旨集 p.16
	近代日本における「三びきのこぶた」の受容	単	平成 28 年 7 月	日本昔話学会 2016 年度大会	発表要旨集 p.1
	保育内容演習「言葉」における実践報告—「ことばあつめ」から冊子の作成まで—	単	平成 29 年 3 月	日本保育者養成教育学会第 1 回研究大会	発表要旨集 p.145
	昭和 30～40 年代の幼児の生活と家庭環境について(2)—教育環境の分析	共	平成 29 年 5 月	日本保育学会第 70 回大会	村田あゆみ、片山伸子 発表要旨集
	昭和 30～40 年代の幼児の生活と家庭環境について(3)—子どもの読み書き能力の分析—	共	平成 29 年 5 月	日本保育学会第 70 回大会	片山伸子、 <u>村田あゆみ</u> 発表要旨集
	Practical Research on the Theme of Traditional Play, as It Relates to Early Childhood Care and Education	共	令和元年 7 月	The 20 th Pacific Early Childhood Education Research Association (PECERA)	<u>村田あゆみ</u> 、堀祥子 発表要旨集 p.370
講演会	左京図書館読み聞かせ交流会 絵本入門講座「えほんたいけん・えほんたんけん」	単	平成 18 年～現在継続中	京都市左京図書館	小学校図書館ボランティアを対象に絵本の基本について毎年1回実施している。
	名古屋柳城短期大学歴史資料室主催歴史研究会	単	平成 28 年 3 月	名古屋柳城短期大学	「資料:御器所幼稚園「園児生活調査」について」
	絵本ワークショップについて	単	平成 28 年 6 月	日本児童文学学会中部支部・日本イギリス児童文学学会中部支部 6 月合同例会	フリートーキング 話題提供者
	「絵本のしくみとその秘密—絵とことばと物語」	単	平成 29 年 10 月 20 日	名古屋女子大学	名古屋女子大学・瑞穂区生涯学習センター共催講座「子どもの豊かな育ちのために」
	絵本を読んでみよう—絵本読み語り講座—	単	平成 29 年 11 月 2 日	愛知県立天白高等学校	学部出前授業として実施

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年 月 (日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
	『はじめてのおつかい』を読んでみ よう—えほんの絵を読む—	単	平成 30 年 10 月 16 日	寝屋川市立市民会館	NPO 法人子どもと本をつなぐ会 ～おおきくなあれ～絵本の講演 会
	絵本を読んでみよう—絵本読み話 り講座—	単	平成 30 年 10 月 31 日	愛知県立豊田高校	学部出前授業として実施
	加古里子の絵本の数々—子どもと 遊びと絵本—	単	平成 30 年 11 月 6 日	寝屋川市立市民会館	NPO 法人子どもと本をつなぐ会 ～おおきくなあれ～絵本の講 演会
	子どもたちに絵本の魅力を届ける ために—読み聞かせボランティア 講座—	単	令和元年 7 月 23 日、30 日	東海市立横須賀図書館	東海市教育委員会(東海市立中 央図書館)主催事業